

「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」⑤ (11：21)

■ヘブル人への手紙の構成

二つの主要な区分	内容	箇所	警告
第一区分： 神学的理論を中心に (適用としての警告 も含む) ユダヤ教の三本柱と 御子との比較	テーマ	1：1～3	
	天使たちに優る御子	1：4～2：18	警告① 2：1～4
	モーセに優る御子	3：1～6	
	第二の警告	3：7～4：13	警告②
第二区分： 適用(御子の優位性を 理解した上での、信者 の歩み)	アロンに優る御子 (レビ族アロンの家系の祭司 職に優る御子) 注①	4：14～10：18	警告③ 5：11～6：20
	勧めのための2つの基盤と4 つの勧め、警告、励まし	10：19～39	警告④ 10：26～31
	旧約の信仰者たちの生き方を 手本とする	11：1～40	
	信仰を持ち続けることの勧め	12：1～29	警告⑤ 12：25～29
	まとめとしての勧め	13：1～25	

注① レビ族アロンの家系の祭司職 ⇒ 以下、「レビ系祭司職」

■「旧約の信仰者たちを手本とする」11章の構成

細目	内容	箇所	
信仰の忍耐	信仰の特徴	1節	
	このような生き方が可能であることを実証した人々がいる	2	
	目に見えないものを確信する事例=天地創造	3	
族長時代以前	アベル	4	
	エノク	5～6	
	ノア	7	
族長たち	アブラハム	8～19	
	イサク	20	
	ヤコブ	21	
旧約の信仰者たち (時系列で)	ヨセフ	22	
	荒野の旅	モーセの両親	23
		モーセ	24～28
	試練の中で	イスラエル民族の人々	29～30
		ラハブ	31
信仰の勝利	イスラエル国史に見る信仰(士師たち・王たち・預言者たち)	32～34	
	信仰は死を乗り越える	35～38	
		39～40	

■ 前回の内容 「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」④ (11:20)

信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエサウを祝福しました (ヘブル 11:20)

1. エサウとヤコブの誕生 (創 25:19~26)

- (1) 20節 イサク (40歳)、リベカと結婚。
- (2) 21節 結婚から20年近くになっても、子どもができない。イサクは妻のために主に祈った。主は、その祈りに答えてくださり、リベカはみごもった。
- (3) 22~22節 胎内で複数の胎児がぶつかり合う。リベカは、「いったい、どうなるのでしょうか、私は」=母体の命に危険を感じた→リベカも主に祈った
- (4) 23節 主の答え
 - ① 「二つの国」「二つの国民」=エサウからエドム民族、ヤコブからイスラエル民族
 - ② 「一つの国民は他の国民より強く、兄は弟に仕える」=イスラエルはエドムよりも強くなる。エドムはイスラエルに隷属する。
- (5) 24~26節 双子の誕生
 - ① エサウ「毛深い」、エサウから出た民族の名はエドム「赤い」エサウの毛の色
 - ② ヤコブ「かかと \square アケブをつかむ者」、二義的には「押しのける者」という意味もあるが、出産時の命名としては単に「かかとをつかんでいた」という事実を表現しただけで、良くも悪くもない中立的な命名である。→悪い意味をあてたのは、エサウが怒っての発言 (創 27:36)。
 - ③ 双子の誕生のとき、イサクは60歳

2. エサウは、ヤコブに長子の権利を売った (創 25:27~34)

- (1) 27節 エサウとヤコブの成長
 - ① エサウは「巧みな猟師」。ニムロデもそのように評された (創 10:8~12)。聖書の文脈上、この評価は良い意味ではない。
 - ② エサウは「野の人」。家業である牧畜には従事しなかった。
 - ③ ①と②から見えてくるエサウの人物像は、狡猾な人物。そして、家族やアブラハム契約を大切にす気持ちはなく、長子でありながら、家族の輪から外に出ている。
 - ④ ヤコブは「穏やかな人」。この訳は適切ではない。 \square タム=完全な、いつも背筋が伸びた、まっすぐに立った、完成した、非の打ち所がない。
 - ノアもそのように評された (創 6:9、「全き人」、 \square タミーム=完全な、タムと同じく、 \square タマム「完成する」を語源とする)
 - ヨブも (ヨブ 1:8「潔白で \square タム」)
 - 詩 18:25「全き者には、全くあられ」人間の「全き者」とは、全く罪を犯さない人という意味ではない。その人の心が神の方をきちんと向いているかどうか、である。
 - ⑤ ヤコブは「天幕に住んでいた」。一族の輪の中にあって、家業である牧畜に従事した。祖父アブラハム、父イサクと同じ仕事をした。羊飼いの仕事は、弱虫いくじなしの仕事ではない (創 31:38~40、Iサム 17:34~35)。

- ⑥ 神の評価「わたしは、ヤコブを愛した。わたしは、エサウを憎んだ」(マラキ 1:2~3)
- (2) 28節 両親と双子の関係
- (3) 29~34節 ヤコブはエサウから長子の権利を買った
- ① 30節 この訳は上品すぎる。原文のニュアンスは、粗野な感じ。「おい、赤いの、その赤いものを俺によこせ、一気にがぶ飲みさせろ」
- ここにはエサウの生き方が表れている。神のこと、永遠のことなど関心はなく、目先のその時だけを生きている人生。
 - ヘブル人への手紙の著者は、エサウを評して「俗悪な者」(ヘブル 12:16)と評している。
- ② 31節 長子の権利。財産分割で他の兄弟の2倍(申 21:17)、霊的な富(1歴 5:1~2)、アブラハム契約の線上にあるのでメシアを出す家系になること、約束の地を所有すること。
- ヨセフは自分が兄たちの上に立つという預言的な夢をみた。その預言は成就して実際に長子としての霊的な富を受けることになるが、その過程では、ヨセフは奴隷として売られ、牢獄に入るという苦難の時を経た。その中で、ヨセフは信仰の忍耐をした。
- ③ 32節 長子の権利の中心は、霊的な富。しかし、エサウは、霊的な富を保持することに関心を払うことがなかった。
- ④ 33節 エサウはヤコブに長子の権利を売った
- ⑤ 34節 「エサウは、食べたり、飲んだりして、立ち去った」原文は4つのステップ:食べた、飲んだ、立ち上がった、そして去った \square ヤラク「離れる、行く、自分の道に行く」
- ⑥ 34節 「こうして、エサウは長子の権利を軽蔑したのである」
- 単に売っただけでなく、「軽蔑した」= \square バザー「価値のないものとして扱った」
3. エサウの妻たち(創 26:34~35)
- (1) エサウ 40歳で、ヘテ人の妻を二人娶る→アブラハム契約を受け取るという気持ちがない
4. イサクによるヤコブとエサウの祝福(27:1~28:9)
- (1) イサクの意向(27:1~4)
- ① 創世記の他の箇所から推定すると、このときイサク 137歳、エサウとヤコブは77歳。イサクが実際に死去したのは、180歳。しかし、視力が衰えてほとんど見えなくなり、死期が近いと感じた。
- ② 4節 これは、25:23でリベカに啓示された神のみこころとは違う。
- ③ アブラハム契約を継承する子への祝福を、「私の好きなおいしい料理」と引き換えに与える? エサウが食べ物で長子の権利を売った軽率さに近い態度を感じるが、食べ物と飲み物を受け取って祝福を与える儀式的習わしが古代にあったことも事実。
- (2) リベカによる偽計(27:5~17)
- (3) ヤコブによる騙しの実行とイサクによるヤコブへの祝福(27:18~29)
- ① 18節 \square は、エサウ、あなたの長子です。 \square では、「私」は2種類。名前を

強調するときに使う「私」と、資格や間柄を強調するときに使う「私」。ここは後者。

- ② 24節 私です。ここは、前者。
 - ③ 27~29節 祝福 29節の最後「おまえをのろう者はのろわれ、おまえを祝福する者は祝福されるように」＝アブラハム契約での族長への祝福(12:3)
- (4) イサクによるエサウへの祝福
- ① 33節 「イサクは激しく身震いして」・・・これは怒りではなく、恐れ。神のみこころを再認識し、自分が神のみこころに反していたことを思い知って、激しい恐れを覚えた。
 - ② 33節 「それゆえ、彼は祝福されよう」・・・神のみこころを思い知って、ヤコブを祝福したことは撤回できないことであると悟った。
 - ③ 34節 原文は3段階、「エサウは泣き叫んだ、大声で泣き叫んだ、苦々しい泣き言を激しく叫んだ」。彼は、霊的祝福はどうでもよかった。物質的祝福、さらに軍事的優越性を切望していた。
 - ④ 35節 イサクの発言「おまえの祝福を横取りしてしまった」これは誤り。すでに長子の権利はヤコブに帰属していた。
 - ⑤ 36節 エサウの発言「彼の名がヤコブというのも、このためか」「ヤコブ」の本来の意味ではなく、二義的な意味をあてつけた。
 - ⑥ 「二度までも私を押しつけてしまって。私の長子の権利を奪い取り、今また、私の祝福を奪い取ってしまった。」・・・一度目はエサウがヤコブに長子の権利を売ったことを指している。「奪い取った」というのは、うそである。
 - ⑦ 37節 イサクの応答 撤回できない。当時の習慣では、父親がいったん口にした遺言は撤回できない。
 - ⑧ 38節 エサウは再びイサクに祝福を求めた。そして、声をあげて、泣いた
 - ⑨ 39~40節 イサクによるエサウへの祝福
 - 39節 「おまえの住む所では、地は肥えることなく、上から天の露もない」・・・原文では、「肥沃な地から離れておまえは住むだろう。天の露を受ける地から離れて。」ヤコブに与えた祝福(28節)の反対側の内容。エサウは約束の地を相続しない。エサウは約束の地の外側でしか住めない。
 - 40節 エサウから出る民族「エドム」についての3つの事柄
 - 武力によって生きる(民20:14~21)
 - イスラエルに従属する(Iサム14:47、IIサム8:14)
 - そのくびきを解き捨てる(II歴21:8~10、II列16:6、II歴28:16~17)
 - ヘロデ大王
5. イサクからヤコブへのアブラハム契約の継承
- (1) エサウの殺意とリベカの対応(27:41~46)
 - (2) ヤコブへの命令(28:1~2)
 - (3) イサクからヤコブへのアブラハム契約の継承(28:3~4)
 - ① 全能の神がおまえを祝福してくださる
 - ② 多くの子どもを与えてくださる
 - ③ おまえを増やさせてくださる

- ④ おまえが多くの民の集いとなる
 - ⑤ 神がアブラハムの祝福を、おまえと、おまえと共にいるおまえの子孫とに、授ける
 - ⑥ 神がアブラハムに下さった地、おまえがいま寄留しているこの地を継がせてくださる
- (4) ここに至って、ついに、イサクは神のみこころと同じになった。イサクは神の選びを認めた。

■ 本日の内容 「旧約の信仰者たちの手本」の「族長時代」⑤ (11:21)

信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました (ヘブル 11:21)

1. ヤコブはパダン・アラム (アラムの平野) の地のハランへ行く (創 28:5~22)
 - (1) 5節 母リベカの実家。このときの当主は、リベカの兄ラバン。ヤコブは77歳
 - (2) 6~9節 エサウの3番目の妻
 - (3) 10~22節 アブラハム契約を継承したことの再確認。☒ベテル「神の家」
2. ハランでのヤコブ (創 29:1~30:43)
 - (1) 1~14節 到着
 - (2) 15~30節 7年間働いて、結婚 (ヤコブ、84歳)。さらに7年間働くことになる
 - (3) 31節~30章24節 ヤコブの息子たち
 - ① 11番目はヨセフ。妻ラケルが自ら生んだ最初の子。
 - ☒アサフ「取り去る」
 - ☒ヤサフ「加える」→ヨセフ
 - ② 創世記の他の箇所と合わせると、ヨセフ誕生のとき、ヤコブ90歳。
 - (4) 25~36節 ラバンとの取り決め
 - (5) 37~43節 ヤコブが富む
3. ハランを出る (創 31:1~55)
 - (1) 1~21節 出発。ハランに来てから20年、ヤコブは97歳、ヨセフは7歳。
 - (2) 22~42節 ラバンが追跡する
 - (3) 43~55節 ガルエデでの契約
4. エサウとの再会 (創 32:1~33:17)
 - (1) 1~2節 マハナイム
 - ① 神の「陣営」：☒マハネ「宿営、キャンプ」
 - ② ☒マハナイム=マハネの双数、「ふたつの宿営」。一つは1節の天使たちの集団を指す「神の宿営」、もう一つはヤコブの宿営。
 - ③ ヤコブがハランに向かったときには「ベテル」で、そして帰って来ると「マハナイム」で天使たちが現われた。これは、ヤコブが神の守りの中にあることを示している。
 - (2) 3~21節 エサウへ使者を送る。エサウへの贈り物を準備する。
 - ① 使者からエサウが「400人を引き連れて来る」との報告を受けて、攻撃を受けるかもしれないという恐れを抱く。宿営を二つに分け、神に祈る (9~12節)。

- ② 贈り物を準備する。5つのセット(14~15節)。やぎ220頭、羊220頭、らくだ30頭とその子らくだ、牛50頭、ろば30頭
- ③ 20~21節、ヘブル原文では、「顔」が5回登場する。
- 贈り物によって彼(の顔)をなだめ
 - それは私(の顔)よりも先に行く
 - そうして後、彼の顔を見よう
 - 彼は私(の顔)を快く受け入れてくれる
 - それで贈り物は彼(の顔)より先を通過して行き、
- (3) 22~32節 ペヌエル・・・ペニエル「神の顔」
- ① ヤボクの渡し、ヤコブ、ヤベイク「格闘する」
- ② 24節 「ある人」 主の使い=第二位格の神(ホセア12:4)
- ③ 26節 もものつがいを外されても、ヤコブはその人にしがみついていた
- ④ イスラエル サラ+エル 神と戦う
- 【神が戦う】という意味でもある。改名したことで、これからは神がイスラエルのために戦ってくださる、とも受け取れる。
- ⑤ ヤコブは神と格闘した、祝福を得るために。また、ヤコブは人(複数形)とも格闘した、エサウやラバンと。神にも人にも彼は勝った。
- ⑥ 30節 神を見た・・・ヤコブは「ある人」を神ご自身であったと認めた
- (4) 33章1~17節 エサウと会う
5. シェケム(創33:18~34:31)
- (1) シェケム周辺に来る(33:18~20)
- (2) ディナ(ヤコブとレアの娘)事件(34:1~31)
6. ベエルに帰ってくる(創35:1~15)
- (1) ベテルまでの旅路(35:1~8)
- (2) 神の現われ(35:9~15)
7. ベニヤミンの誕生とラケルの死(創35:16~20)
8. ミグドル・エデルでの出来事(創35:21~22a)
- (1) ルベンの行動は、自分が一族のリーダーであることを主張したのかもしれない(参考 IIサム3:7、12:8、16:20~22)
- (2) イスラエルは、このことを聞いた。→ この時点では、それについて何も言わなかった。しかし、後に49:3~4で取り上げる。ルベンのした事は、長子の権利を失うことになる。
9. ヤコブの12人の息子たち(創35:22b~26)
10. イサクの死(創35:27~29)
11. エサウからエドム人が出る(創36:1~37:1)
- (1) 36:1 これはエサウ、すなわちエドムの歴史である
- (2) 36:43c~37:1 「エドム人の先祖はエサウである。ヤコブは、父が一時滞在していた地、カナンの地に住んでいた」
- ① エサウが住んだのはエドムの地、ヤコブが住んだのはカナンの地。
- ② この箇所からエサウは創世記の記事から消えていく。
12. ヨセフが奴隷に売られる(創37:2~36)
- (1) 2~4節 そでつきの長服(長子の権利を示唆する)、ヨセフ17歳

- (2) 5~11 節 ヨセフの見た夢
 (3) 12~24 節 穴に落とされる
 (4) 25~36 節 奴隷に売られる。ヨセフ 17 歳。
13. ユダと息子の嫁タマル (創 38 : 1~30)
 (1) 1~11 節 タマルとユダの息子たち
 ① 1 節 ヨセフが奴隷に売られた頃、ユダは、「下って行き」シェフェラーの地域に移動した。
 (2) 12~26 節 タマルとユダ
 (3) 27~30 節 双子が生まれる
 (4) 時期的には、次の 39 章から 45 章までの期間と並行する。ヨセフが奴隷に売られて、その後エジプトの宰相になって活動する時期である。双子が生まれるのは、7 年間の飢饉に入って 2 年目 (ヨセフ 39 歳) の頃と推定される。
14. ヨセフ ポティファルの家にて (創 39 : 1~18)
 (1) 1~6 節 ヨセフへの祝福
 (2) 7~18 節 ヨセフとポティファルの妻
15. ヨセフ 牢獄の中で (創 39 : 19~40 : 23)
 (1) 19~23 節 ヨセフへの祝福
 (2) 40 章 二つの夢
16. ヨセフ パロの前で (創 41 章)
 (1) 1~8 節 パロの見た二つの夢
 (2) 9~13 節 献酌官長の報告
 (3) 14~24 節 パロがヨセフに夢の内容を語る
 (4) 25~36 節 ヨセフが夢を解き明かし、対策についての助言をする
 (5) 37~46a 節 ヨセフがエジプトで王に次ぐ地位に上る。ヨセフ 30 歳。
 (6) 46b~57 節 ヨセフの活動
17. ヨセフと兄弟たち (創 42 : 1~45 : 28)
 (1) 42 章 兄弟たち、エジプトに来る【第 1 回目】
 (2) 43~45 章 兄弟たち、エジプトに来る【第 2 回目】
 ① 45 : 6 飢饉の 2 年目。まだ、5 年は続く。ヨセフ 39 歳
18. イスラエル、エジプトへ (創 46 : 1~47 : 12)
 (1) 1~6 節 神の認可
 (2) 8~27 節 ヤコブの家族
 (3) 28~34 節 エジプトに到着
 (4) 47 章 1~10 節 パロにヨセフから報告、パロの前に立つ 5 人の兄弟、次いで父ヤコブ (9 節、130 歳)
 (5) 11~12 節 ラメセスに住む。そこは、ゴシエンの地 (47 : 27) の一部で、ゴシエン地方の中でも良い地。パロの命令。12 節は、ヨセフによる全家族の扶養。
19. 飢饉の中での食料供給と 家畜・農地・種の保全=農民の保護 政策 (創 47 : 13~26)
 (1) 13~14 節 第一段階
 (2) 15~17 節 第二段階
 (3) 18~22 節 第三段階
 (4) 23~26 節 第四段階

20. ヤコブ、エジプトにて (創 47:27~31)

21. エフライムとマナセへの祝福 (創 48:1~22)

(1) 1~7節 場面

① 5節 ヨセフの二人の子をヤコブの養子とする。

- 「エフライムとマナセ」を子とする、「ルベンとシメオン」と同じように
 - ▶ ルベンとシメオンは、ヤコブの第1子と第2子。その同じ位置にエフライムとマナセが立つ。
 - ▶ ヨセフの二人の子のうち長子はマナセ。しかし、ここで立場は逆転して、エフライムがヤコブの第1子になる。

(2) 8~14節 祝福の準備

① 12節 ヨセフは、父ヤコブへの従順を表す

② 13節 ヨセフは自分の右手にエフライム、自分の左手に長子マナセを取って、対面している父の前に近寄らせる。父がそのまま手を伸ばせば、父の右手は長子マナセに、父の左手はエフライムの上に置かれる。

③ 14節 しかし、イスラエルは手を交差して伸ばし、右手をエフライムの頭の上に、左手をマナセの頭の上に置いた。

(3) 15~16節 祝福の内容

① 15節 「ヨセフを祝福した」 二人の子を祝福するということは、その父親であるヨセフを祝福すること。

② 15節 「私の先祖アブラハムとイサクが御前に歩んだ神、きょうのこの日まで、ずっと私の羊飼いであられた神」 まず、アブラハム契約に焦点をあてる。そして、ヤコブは、幾多の逆境があったが、自分の人生全体が神の支配の中にあつたことを認めている。

③ 16節 「すべてのわざわいから私を贖われた御使い」 次にヤコブは、第二位格の神、主の使いに焦点をあてる。主の使いと「贖い」とを関係させて表現する聖書での最初の箇所。

④ 16節 「この子どもたちを祝福してください。私の名が彼らのうちとなえ続けられますように。先祖アブラハムとイサクの名とともに」

- 私の名が彼らのうちとなえられる＝二人の子がヤコブの養子となる
- 先祖アブラハムとイサクの名とともに＝アブラハム・イサクそしてヤコブの子孫であるイスラエル民族を構成する部族となる (エフライム族とマナセ族)
- 6節 ヨセフがあとから生む子たちは、エフライム族かマナセ族に帰属する。「ヨセフ族」はつくらない。ヨセフの妻はエジプト人 (41:50)。長子の権利は、ヨセフ本人ではなく、エフライムに。しかし、ヨセフから出た二人の子がそれぞれ部族となって、約束の地を受け継ぐので、他の兄弟よりも2倍の相続となる。まさに、ヨセフは祝福を受けた (15節)。

⑤ 16節 「また、彼らが地のまなかで、豊かにふえますように」

(4) 17~18節 ヨセフの反応

(5) 19節 ヤコブの応答

4節の約束は、特にエフライム族において成就するようになる

(6) 20節 ヘブル 11:21 が指す、ヤコブの信仰による祝福のことば

① 原文を直訳すると・・・

彼は、彼らを祝福した、その日に。

☞アマル【言った】、あなたの中にあつて、祝福するだろう、イスラエルは。

☞アマル【言った】、あなたをしてくださるように、神が、エフライムのように、マナセのように

② 不思議な祝福のことばである。☞アマル【言った】に続いて、2つ語られる。

- 一つ目、イスラエル=ヤコブが祝福するのは将来のこと「祝福するだろう」。「あなた A の中であつて」あるいは「あなた A によって」
- 二つ目、祝福のことば、「神が『あなた B』をエフライムのようにマナセのように繁栄させてくださるように」。ここで祝福を受けている『あなた B』が誰かは特定されていない。

③ 一つ目の「祝福するだろう」は、未来形。二つ目の祝福の内容は、エフライムとマナセの繁栄が実現していることが前提。よって、これは将来のことである。

④ あなた A とあなた B の解釈 (清水私見)

- A=B の場合 ヤコブは、祝福する相手、イスラエルの子孫である『あなた』を祝福する。その部族が受け取った約束の地の領域に立って、「あなたの中にあつて」と言う。
- A と B は同一人物ではない場合 「あなた A」は、48:16 の「御使い」、すなわち第二位格の神を指す。
 - 15節 神 16節 御使い ⇔ 20節 御使い 神
 - 主の使いは第二位格の神、20節での「あなた A」は、メシア王国における王である
 - ヤコブは、復活してメシア王国で約束の地に立っている日を預言
- いずれにせよ、ヤコブの目はほとんど見えず、力をふりしぼって床にすわるような (2節、10節) 状況の中で、彼は復活して約束の地に立つ日を望み見ていた。